

水木十五堂

—大和の水木か、水木の大和か—

大和郡山市長 上田 清 氏

法華寺友の会・JAPAN21との共催で9月第2例会を20日に開催した。講師の大和郡山市長上田清氏は2001年市長に当選されて今年で6期目。講演テーマの水木十五堂は明治から昭和にかけて大和郡山市に居住し「大和の水木か、水木の大和か」とまで称賛された人物である。大和の歴史や文化を研究し膨大な資料を収集した水木要太郎（水木十五堂）氏の業績を数々の貴重な資料をもとに語っていただいた。

【水木要太郎（水木十五堂） 1865-1938とは】

十五堂は雅号で本名は要太郎。なぜ十五なのか。所説あるが詳しいことはわからない。生まれは愛媛県伊予市。少年のころから利発で書道が得意。松山中学、東京高等師範学校に学んだ後、教師として奈良県に転住。以後40数年にわたり大和郡山市（豆腐町）で奈良県尋常中学校（現郡山高校）教諭、奈良女子高等師範学校（現奈良女子大学）教授、奈良国立博物館学芸員を歴任。漢詩・和歌・俳句・書画・狂歌・茶道・演劇等、7000点あまりが「水木コレクション」として受け継がれている。

水木はメモ魔で書くことが生きがいというほど大量のメモを残した。大福帳を肌身離さず持ち歩き、人との出会いを大事にした。大福帳は、高村光雲、若山牧水など多くの学者や文人、芸術家の署名やコメント、似顔絵など300冊を超える貴重な記録となっている。また著書も多く残した。法隆寺に関する書籍などがあり、水木は法隆寺の価値を最初に見出した人物と言われている。また、奈良についての案内書や大和鉄道唱歌、骨とう品の収集など、大和を代表する研究者として功績を残した。水木要太郎は昭和13（1938）年に亡くなる。

【水木十五堂賞創設】

大和郡山・稗田村の語り部 稗田阿礼は古事記の編纂に大活躍するが、それから1300年となる2012（平成24）年、大和郡山市は「古事記1300年紀事業」に彩られた。

テーマは「人間ってすごいじゃないか。語り継ごうよ、語り部の里から。」

数々の事業の中で特に力をいれたのが「古事記と宇宙」である。古事記は日本人の原点である。イザナミとイザナギの神様が会い、国が生まれる。古事記の世界はとても人間らしく、壮大なものを感じる。地元の市民劇団「古事語り部座」は「古事記（ふることぶみ）」を公演してきた。今年6作目となる公演は10月29日、30日に予定されている。

古事記にまつわる事業の一環として「大和の水木か、水木の大和か」とまで称賛された水木要太郎氏の業績を顕彰し、後世に語り継ぎ、未来につなぐため、大和郡山市は「水木十五堂賞」を創設することになった。そもそものきっかけは「水木十五堂小伝」松藤真人著の一冊の本にある。語り部の里、大和郡山から語り継ぐことの大切さを発信する取り組みのひとつとして、偉大な先人のことを知ってほしいという思いがある。



【水木十五堂賞歴代受賞者】

第1回荒俣宏氏（小説家）、第2回肥田皓三氏（なにわ学の大家）、第3回4代目市川猿之助氏（歌舞伎役者）、第4回辻本一英氏（伝統芸能保存、研究）、第5回島利栄子（女性の日記研究）、第6回吉田真一郎氏（美術家）、第7回保山耕一氏（映像作家）、第8回4代目旭堂南陵氏（講師）、第9回木下宗昭氏（根付文化の継承、研究）、第10回小泉和子氏（生活史研究）

水木十五堂賞は現代の語り部であり博識と見識をもって広く社会の発展に貢献した人物を表彰。

【シビックプライドを大切に するまちづくりを！】

賞を創設して10年たち、自分たちの町は自分たちでつくる取り組みを行っている。

こどもたちに橋の名前をを考えてもらい、57の橋にQRコードを付けて名前の由来などを知ってもらえるようにした。橋をたどりながらのツアーができる。

大和郡山市の指標は「平和のシンボル、金魚が泳ぐ城下町。」

これからどうなっていくのか。先人が頑張ってくれたのだから、さまざまな分野の方々との交流の輪を広げるとともにシビックプライドを大切にすまちづくりを進めていきたい。

大和郡山市教育大綱

基本理念

ふるさと郡山に夢と誇りと自信を持ち
未来を拓き 未来に駆ける
心豊かな 人づくり

「郷育」 ふるさとの歴史に学び 「人」を育てるまちづくり
「響育」 心と心が響き合う 共に育ち希望がふくらむまちづくり

基本方針

<p>「郷育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさとで育ち <small>学校や地域への愛着と誇りを育てる</small> ふるさとに学び <small>一人ひとりの学びをきめ細かく応援する</small> ふるさとを創る <small>ふるさとの未来を担う子どもを育てる</small> 	<p>「響育」</p> <ul style="list-style-type: none"> 心に響く <small>子どもの感動体験を大切にす</small> みんなで響く <small>力を合わせ共に感じる仲間をつくる</small> ずっと響く <small>生涯を通じて学ぶ喜びを持ち続ける</small>
--	--

大和郡山市長 上田 清